

BCAO関西支部 第34回勉強会 議事録

1. 概要

(1) 日時: 2009年8月19日(水) 18:35 ~ 20:30

(2) 場所: 株式会社アイアイジェイテクノロジー 関西支社 会議室

(3) 座 長: 廣本(神戸大学)

(4) 書 記: 福島(清水建設)

(5) 出席者: 20名 (順不同・敬称略) 大西(神戸大学) 廣本(神戸大学) 松本(日本工営) 加瀬(大阪科学技術センターATAC) 川口(船井電機) 佐原(鈴与) 田中(グリコ栄養食品) 伊藤(TeleContinuity) 西濱(西濱防災ネット技術) 速水(大阪地下街) 藤村(竹中工務店) 藤本(竹中工務店) 柳父(大阪ガス) 日下(住友電工) 寺西(ストアジャパン) 角(日本建築総合試験所) 萩原(大林組) 前田(富士火災) 福島(清水建設) 小川(アイアイジェイテクノロジー) 大野(アビームコンサルティング) 久保田(大和ハウス)

(6) 議題

「09年新型インフルエンザにおける企業の対応状況に関するアンケート」集計報告
報告 廣本(神戸大学)

概要 09年4月、新型インフルエンザ(A/H1N1)の対応について、BCAO関西地域勉強会所属企業・団体20社からアンケートの回答を頂いた。その集計結果を発表した。

- ・感染予防・拡大防止への取り組み方針や体制については整備ができたが、その具体策や運用面については、まだこれからというのが実態である。
- ・マスクや消毒液などの備蓄については、何らかの準備はできていた。
- ・情報の収集体制はできていたが、広報体制は未整備であった。
- ・パンフレット配布など普及啓発活動は実施していたが、訓練を定期的に行っていた企業は少ない。
- ・更に詳細な各質問項目の集計結果の説明があった。

討議 説明の途中や後で、メンバーとの活発な意見交換を行った。

- ・BCP発動などのトリガーは企業で決めているが、いつ解除するかが難しい。
 - ・現在も引き続きBCP発動を継続している企業もあり、一方で既に解除した企業もある。
 - ・米国ワシントンDC、NY等や米国の東京支社では全くケアできていなかった。
 - ・日本企業の海外拠点へ日本から感染防止策の指示が出されたが、現地の公衆衛生上の慣習と合わず違和感を覚えた企業もあった。
 - ・情報発信には多様な手段が講じられたが、構成員への伝達は容易ではなかった。
 - ・取引先からの問い合わせは早期の時点からあったが、政府の対応緩和を受け収まった。
 - ・現実を突き付けられ、ルールと実態が乖離していることが判明した。感染し、一旦待機に入った従業員が回復した場合、どうするのかなど、検討すべき課題は多い。
 - ・安否確認システムは新型インフルエンザ流行時にも機能するのか。長期運用で支障をきたすことが懸念される。
 - ・次回9月は意見交換会であり、今回の報告内容を受け、再度話し合いたい。
- (アンケート報告書は、アンケート回答企業・団体に後日送付する。) 以上